〔実践報告〕

看護基礎教育におけるキャリア教育の効果
～キャリアデザインプロジェクト学習を導入して～

小野麻由子

Effectiveness of career education in basic nursing education: Introducing career design project learning

Mayuko ONO

要旨：看護基礎教育のキャリア教育におけるキャリアデザインプロジェクト学習の効果について明らかにした。

本学３年次生105名に対して、Webによるアンケート調査を実施した結果、回答数は93（回収率89.4％）、有効回答数も93（有効回答率89.4％）であった。

プロジェクト学習で「身につく力」（鈴木, 2012）について調査した結果、肯定的回答割合が最も高かった項目は、「２．目標を設定する力」であった。また、「強くそう思う」と答えた割合のみでは、「９．次へのモチベーション」が他の項目に比べ極めて高かった。自由記載結果からは、【キャリアビジョンの具体化】、【次のステージへのモチベーション】が抽出され、オンラインホワイトボードを使用してみての自由記載結果では【チーム全体で成果物を作成することの効果】、【効果的な機能】、【新たな発想への転換】、【表現力のスキルアップ】、【他者からの学び】、【今後の活用への期待】、【ツールの使いにくさ】、【オンライン上のデメリット】の10分類が抽出された。

2021年度から開始した本学のキャリア教育では、目指すキャリア像について、明確な「ビジョン」と「ゴール」を設定し、具体化したキャリアビジョンを提案集として制作できていた。今後、看護職全体が目指す生涯学習における自律的なキャリア形成の基盤として、看護基礎教育の段階から、キャリアをデザインするというスキルの獲得につながったと言える。

キーワード
看護基礎教育、キャリア教育、キャリアデザインプロジェクト学習

Abstract：This study examined the effectiveness of a career design project learning in basic nursing education. A web-based questionnaire was conducted with 105 third-year college students, resulting in 93 responses (89.4% response rate) with 93 valid responses (89.4% valid response rate).

The questionnaire measured student skill acquisition through project-based learning based on the ‘abilities acquired’ (Suzuki, 2012) framework. Among the surveyed skills, “2. the ability to set goals” received the highest percentage of “strongly agree” responses. Furthermore, among respondents who answered “strongly agree,” motivation for the next stage” was extremely high compared to the other items. From the open-ended questions responses, the following were extracted: “concretization of career vision” and “motivation for the next stage” Responses on the use of online whiteboards showed that “effectiveness of creating deliverables with the whole team,” “effective functionality,” “conversion to new ideas,” “improvement of expression skills,” “learning from others,” “expectations for future use,” “difficulty in using the tool,” and “online disadvantages” were the most common.

In the college’s career education, which began in 2021, through creating a clear ‘vision,’ setting goals, and developing a concrete vision for their desired careers, basic nursing students acquired the lifelong skills needed for autonomous career development in lifelong learning, which is a goal of the nursing profession.

Keywords：
basic nursing education, career education, career design project learning

受理日：2023年10月４日　掲載決定日：2023年11月７日
日本赤十字秋田看護大学
Japanese Red Cross Akita College of Nursing

Ⅰ．はじめに

経済産業省（2010）は、2006年、職場や社会の中で多様な人々と共に仕事をしていくために必要となる基礎的な力として、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力の3つの力で構成した「社会人基礎力」の概念を発表した。さらに経済産業省（2018）は、2018年、この社会人基礎力は、大学教育、就職・採用、新入社員研修など、限られた年代での活用が中心であったが、「人生100年時代」を迎えつつある中で、今や全ての年代が意識すべきものと捉えなおす必要があると述べている。さらには、「社会人基礎力」の3つの能力を発揮するにあたって、「学び（何を学ぶか）」「統合（どのように学ぶか）」「目的（どう活躍するか）」のバランスを図ることが、自らのキャリアを切りひらいていく上で必要と位置付けられた（経済産業省，2018）。

一方、看護職のキャリアについて、日本看護協会（2023）は、看護職一人ひとりの生涯学習の羅針盤とすべく、新たに「看護職の生涯学習ガイドライン」を策定し、看護職一人ひとりの生涯学習を支援する取り組みの指針として位置付けた。木澤（2023）は、人生100年時代において、看護職は、個人のライフステージ等に応じた働き方を選択し、様々な組織や領域等を経験しながら働き続けるように変化しており、今後は、看護職一人ひとりが主体的に学びを積み重ねキャリア形成していくことが、これまで以上に重要であると述べている。即ち、看護界全体が、生涯に渡って主体的に学びを積み重ね、キャリア形成していくことが、これまで以上に重要視される新たな時代に入ったと言える。今後は、看護基礎教育の段階から、自己のキャリアをデザインできる力を身につけられるようなキャリア教育が急務であると言える。

プロジェクト学習は、学習者がそのスタートから終りまでのすべてを、能動的に行い、自分がすることの意味も価値も理解し、その仕組みや戦略、行動に至るすべてが学習者の考えのもとに進む高度なアクティブラーニングであると述べられている（鈴木，2016）。看護基礎教育におけるキャリア教育においても、受動的な講義形式である知識伝達型の教授法ではなく、学生自身が目指すキャリア像を具体化し、その実現のためにはどのようにキャリアを積んでいったらよいのかを自らで考える一連のプロセスには、プロジェクト学習が効果的であると考える。

本学では、2018年度のカリキュラム改定の際、3年次後期に「看護管理学Ⅱ」が新設され、2021年度より、「看護管理学Ⅱ」の中でキャリアデザインプロジェクト学習を実施している。キャリアデザインプロジェクト学習は、同様のキャリア領域に関心を持つ学生ごとにチームを作成し、キャリアデザイン提案集を完成させ、公開プレゼンテーションを開催するといった授業設計による学習方法である。

今回は、プロジェクト学習で「身につく力」（鈴木，2012）について調査し、キャリアデザインプロジェクト学習による効果を検証した。そこで、このようなキャリア教育が看護基礎教育において、どのような学びにつながっているのかを明らかにする。

Ⅱ．目的

看護基礎教育のキャリア教育におけるキャリアデザインプロジェクト学習の効果について明らかにする。

Ⅲ．方法

１．研究期間

2021年12月～2023年3月（キャリアデザインプロジェクト学習期間：2021年12月18日～2022年2月8日）

２．対象者

本学3年次生105名

３．キャリアデザインプロジェクト学習の実際

2021年度、キャリアデザインプロジェクト学習は、看護管理学Ⅱの授業回数7回で構成し、1回90分で実施した。学習の流れは図1、図2、図3に示した通りである。尚、新型コロナウイルスの感染状況により、7回の全てを米Zoom Video Communications Inc.が提供するWeb会議システム（以下、Zoom）で実施した。

４．データ収集方法

キャリアデザインプロジェクト学習終了後、Googleフォームによるアンケート調査を実施した。

鈴木（2012）の、プロジェクト学習で「身につく力」をもとに、1. 課題を発見する力、2. 目標を設定する力、3. 戦略的に計画する力、4. 情報を見極める力、5. 発想力、6. わかりやすく表現する力、7. コミュニケーション力、8. 論理的に表現する力、9. 次へのモチベーショ

【目的】

キャリアデザインを具体的に描き、「キャリアデザイン提案集」が作成できる。

授業１回目「ゲストスピーカーによる講話」

学内プロジェクトの一環として、2014年度に行った「日赤秋田看護大学の看護学生によるキャリアデザイン提案集の作成」に関わった卒業生から、「私のキャリアデザインとこれまでの道」について実際の歩みを語ってもらった。

授業２回目「全体オリエンテーション」

・ポートフォリオ、プロジェクト学習についての説明
・Googleクラスルームの活用したオンラインポートフォリオの説明
・オンラインホワイトボードmiroを用いた成果物の作成についての説明
・評価の視点として図2に示したルーブリックの内容を事前に提示
・各自で図3に示した「ゴールシート」を作成

＊各自のゴールシートを基に教員がチーム編成した

【チーム編成（学生人数）】

チーム１：急性期・救急関連（５人）
チーム２：集中治療･手術室関連（５人）
チーム３：災害関連（６人）
チーム４：地域包括･在宅関連①（８人）
チーム５：地域包括･在宅関連②（７人）
チーム６：地域包括･在宅関連③（７人）
チーム７：保健師活動関連（６人）
チーム８：政策･管理関連（３人）
チーム９：小児看護関連（７人）
チーム10：小児・家族・地域関連①（６人）
チーム11：小児・家族・地域関連②（５人）
チーム12：母性関連（６人）
チーム13：認知症関連（４人）
チーム14：看護職関連（６人）
チーム15：養護教諭関連（９人）
チーム16：性教育・中絶・不妊症関連（３人）
チーム17：虐待・ネグレクト関連（４人）
チーム18：個別性・寄り添う看護関連（８人）

授業３回目「グループワーク」

・チーム結成（互いのゴールシートを知る）
・個人のゴールシートを基にチームで１つのゴールシート作成
・各自で作成するオンラインポートフォリオについて説明
　オンラインポートフォリオ内容
　　データ検索（ゴールシートについて今の状況が分かるデータ）、
　　関連施設マップ作成、キャリアストーリーの提案（大学在学中→〇〇勤務→〇〇勤務）
　　リアル情報として、インタビューの対象看護師を検索

図１．看護管理学Ⅱ「キャリアデザインプロジェクト学習」学習内容

授業４回目「グループワーク」
・各自で作成したポートフォリオをチーム内で発表し検討
・インタビュー先から、教員が内諾を得た後、学生がインタビュー日時のアポイントメントを取る
・Zoomにてインタビューの実施
・ゴールシートについての課題提言→解決策（必要な能力・経験・資格）

インタビュー先	
チーム１：急性期・救急関連	救急看護認定看護師、急性・重症患者看護専門看護師
チーム２：集中治療･手術室関連	集中治療室での臨床経験のある大学教員
チーム３：災害関連	大学 災害看護学教員
チーム４：地域包括･在宅関連①	訪問看護ステーション 看護師
チーム５：地域包括･在宅関連②	訪問看護ステーション 看護師
チーム６：地域包括･在宅関連③	訪問看護ステーション 看護師
チーム７：保健師活動関連	市役所 保健師
チーム８：政策･管理関連	幼老複合施設 代表理事
チーム９：小児看護関連	大学 小児看護学教員
チーム10：小児・家族・地域関連①	乳児院 看護師
チーム11：小児・家族・地域関連②	多機能型重症児者デイサービス 代表
チーム12：母性関連	大学 母性看護学教員
チーム13：認知症関連	認知症看護認定看護師
チーム14：看護職関連	大学 基礎看護学教員
チーム15：養護教諭関連	大学 教職課程教員、看護師臨床経験のある養護教諭
チーム16：性教育・中絶・不妊症関連	大学 母性看護学教員
チーム17：虐待・ネグレクト関連	大学 精神看護学教員
チーム18：個別性・寄り添う看護関連	緩和ケアやがん看護を専門としている大学教員

授業５回目「グループワーク」
・インタビューデータのまとめ
・キャリアストーリーの作成

授業６回目「グループワーク」
・オンラインホワイトボードmiroを用いて、キャリアデザイン提案集作成（図４）
・公開プレゼンテーションの準備

授業７回目「オンライン発表」
・公開プレゼンテーションの実施
公開プレゼンテーション終了後､各自で他のチームのmiro上に前向きなコメントを記載する｡また､ベスト賞を決め、ルーブリックに記載する。

図１．看護管理学Ⅱ「キャリアデザインプロジェクト学習」学習内容　つづき

評価の視点	評　価　基　準		
	素晴らしい！	もう少し！	残念！
個人のゴールシート	ビジョン（目的）、ゴール（目標）等を記入して提出できた。（５点）	提出できたが、内容に不備があった。（２点）	期限内に提出できなかった。（０点）
チームのゴールシート作成時の貢献度	発言と傾聴を積極的に行い、グループの討議に多く貢献した。（６点）	グループの討議に関わろうとしていたが、発言は少なかった。（３点）	グループの討議に関われなかった。（０点）
チームポートフォリオ	個人で４項目の材料を集めることができた。（８点）	個人で２～３項目の材料を集めることができた。（５点）	個人で０～１項目の材料を集めることができた。（１点）
課題提言と解決策	発言と傾聴を積極的に行い、グループの討議に多く貢献した。（５点）	グループの討議に関わろうとしていたが、発言は少なかった。（２点）	グループの討議に関われなかった。（０点）
インタビューの貢献度	対象選定、アポイントメント、インタビューの実際、インタビュー結果のまとめの全てのプロセスに貢献した。（６点）	対象選定、アポイントメント、インタビューの実際、インタビュー結果のまとめのプロセス中、３項目に貢献した。（３点）	対象選定、アポイントメント、インタビューの実際、インタビュー結果のまとめのプロセス中、１項目に貢献した。（１点）
プレゼンテーション	具体的なキャリアストーリーが盛り込まれたプレゼンテーションができた。（10点）	キャリアストーリーが盛り込まれたプレゼンテーションであったが、具体性に欠けた。（５点）	プレゼンテーションにキャリアストーリーが含まれていなかった。（１点）
授業外貢献度	自分のことはもちろん、チームメンバーにも気にかけてフォローし、チーム活動に多く貢献した。（５点）	授業外で分担された内容は全てやってきた（自分の役割は果たした）。（２点）	授業外で分担された内容を一部やってきた。（１点）
他者への評価	他のグループに前向きなコメントができた。（３点）		他のグループにコメントができなかった。（０点）
ベスト賞	全グループの中からベスト賞を選ぶことができた。（２点）		ベスト賞が選べなかった。（０点）

ベストオブ賞を記入してください！（　　G）

図２．看護管理学Ⅱ「キャリアデザインプロジェクト学習」ルーブリック　　50点分

〈ゴールシート〉

年　　月　　日（　）

ゴール（目標）

理由

ビジョン（目的）

氏名

©シンクタンク未来教育ビジョン　鈴木敏恵
鈴木敏恵：アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する
web付録　医学書院　2016

図３．看護管理学Ⅱ「ゴールシート」

ンの9項目について回答を得た。

回答内容は、「強くそう思う」「そう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」のいずれかを選択してもらった。また、オンラインホワイトボードmiro（以下miro）の使用についての意見やその他の意見は自由記述として回答してもらった。

５．データ分析方法

9項目の回答結果を単純集計した。また、自由記載結果については、文脈に注意しながら要約し、1つの意味単位ごとに区切り、類似するデータを集めて質的に分類した。

６．倫理的配慮

以下の内容を、口頭で説明し、Googleフォームによる質問紙の冒頭にも記載した。回答は任意であり、結果は個人が特定されないように集計し、授業改善にむけて、学内・学外の研修会や学会で発表及び投稿することを説明した。その上で、同意の有無について選択してもらった。なお、回答期間は4日間とした。

Ⅳ．結果

回答数は93（回収率89.4％）、有効回答数も93（有効回答率89.4％）であった（表1）。

キャリアデザインプロジェクト学習で「身につく力」のすべての項目で「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が88.2％～97.8％と高値を示しており、「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と答えた割合は2.2%～11.9%であった。

「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が最も高かった項目は、「2. 目標を設定する力」であり、次に高かった項目は、「5. 発想力」、「6. わかりやすく表現する力」であった。また、「強くそう思う」と答えた割合のみに焦点をあててみると、「9. 次へのモチベーション」が58.1%と、他の項目に比べ極めて高かった。さらに、「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と答えた割合が最も高かった項目は、「4. 情報を見極める力」、「8. 論理的に表現する力」であった。

自由記載の回答については、記述内容の類似性に従ってまとめた分類を【　】で示し、記述内容は『　』で示した（表2）。

自由記載結果からは、【キャリアビジョンの具体化】、【次のステージへのモチベーション】が抽出され、miroを使用してみての自由記載結果では【チーム全体で成果物を作成することの効果】、【効果的な機能】、【新たな発想への転換】、【表現力のスキルアップ】、【他者からの学び】、【今後の活用への期待】、【ツールの使いにくさ】、【オンライン上のデメリット】の10分類が抽出された。

【キャリアビジョンの具体化】では、『自分の将来のビジョンを深めることができた』、『今後のキャリアストーリーについて考えるとても良い機会となった』が抽出されており、『他のチームのキャリアデザインの発表を聞き、改めて考えることができた』、『他のグループの発表を聞き、みんなの関心事を知ることができ、新しい視点や知識が得られた』等、他のチームの発表からも新たな視点や知識等の学びが得られたことが示されていた。また、【次のステージへのモチベーション】

表１．キャリアデザインプロジェクト学習の効果（n=93）

n(%)

	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	全くそう思わない
1. 課題を発見する力	42(45.2)	44(47.3)	4(4.3)	3(3.2)	0(0.0)
2. 目標を設定する力	39(41.9)	52(55.9)	1(1.1)	1(1.1)	0(0.0)
3. 戦略的に計画する力	33(35.5)	49(52.7)	8(8.6)	3(3.2)	0(0.0)
4. 情報を見極める力	28(30.1)	54(58.1)	10(10.8)	1(1.1)	0(0.0)
5. 発想力	29(31.2)	60(64.5)	3(3.2)	1(1.1)	0(0.0)
6. わかりやすく表現する力	32(34.4)	56(60.2)	3(3.2)	2(2.2)	0(0.0)
7. コミュニケーション力	37(39.8)	45(48.4)	8(8.6)	3(3.2)	0(0.0)
8. 論理的に表現する力	22(23.7)	60(64.5)	9(9.7)	2(2.2)	0(0.0)
9. 次へのモチベーション	54(58.1)	30(32.3)	7(7.5)	1(1.1)	1(1.1)

表２．キャリアデザインプロジェクト学習に関する自由記載結果

分　類	記　述　内　容
キャリアビジョンの具体化	自分の将来のビジョンを深めることができた 今後のキャリアストーリーについて考えるとても良い機会となった 他のチームのキャリアデザインの発表を聞き、改めて考えることができた（２件） 他のグループの発表を聞き、みんなの関心事を知ることができ、新しい視点や知識が得られた
次のステージへの モチベーション	作成したキャリアデザインは、今後の就職活動にも大いに役立てられる（２件） 今回の学習で得た学びを就職活動での履歴書や面接に活かしていく 今回の学習は自分たちの新しい強みになると気づくことができた 成長確認としては非常に良い授業だった 全体を通して学びの多い講義になった 自分と同じような夢のある人の将来のビジョンを知ることができ、お互いに将来の不安を話すきっかけになった
チーム全体で成果物を 作成することの効果*	各自の意見や情報をまとめやすかった 同じ画面を共有しながら各自作業ができる点がとても良かった（３件） メンバーの進み具合を見れるのでよかった（３件） より良いものができるよう、メンバーで協力できた（４件） 負担感の偏りが軽減した（４件） 共同で制作できたところが良かった（17件） これまでの演習では各自で資料を作成して、それぞれの資料を統合させていたが、共同編集できて良かった（２件）
効果的な機能*	色や付箋、矢印などが効果的であった（13件） ポスターのように作成できた（10件） 図やグラフを用いた分かりやすい資料になった 慣れてくると便利であった（３件） 範囲も無制限なため、必要な情報を最大限に取り入れることができた 効果的な機能があった 資料作りの幅が広がった
新たな発想への転換*	アイディア次第でどのようにでも表現することができる 限られたもので作るよりも無限に個性を出せるため、頭を柔らかく使うことができた 自分たちの頭で考えたことがそのまま構造化できる １から構成できることで様々な意見が出され、お互いを尊重しながら作成できる 自由に作成できるところが良い（16件）
表現力のスキルアップ*	作業を工夫すればするほど、読む人を引き付けられる資料をつくることができた 他者を惹きつけるポスター制作ができるようになった 聞き手にわかりやすい資料作りの基本的な部分を学ぶことができ、満足感が得られた より見やすく、わかりやすい資料が作成できるようになった（４件） よりわかりやすい資料を作成できるところに魅力を感じた 表現の幅が広くて個別性が出やすい（３件） 資料作りの幅が広がった 見やすく作成できた 大切なことや重要なことを強調し、重点的に書くと伝わりやすいと思った
他者からの学び*	チームにより作成方法が違い、miroの使い方を自分の中で広げることができた（２件） Googleクラスルームでは、他のチームのmiroを参考として見ることができてよかった 他者からのコメントをみて、チームでアイディアを出し合って作ったことが伝わっていたことに喜びを感じた
今後の活用への期待*	使いやすく導入してくれてよかったため、今後も使われていくことを期待している 対面授業になっても使ってほしい（２件） 使いやすかったので、他の授業でも使っていきたい
ツールの使いにくさ*	操作が難しかった（７件） 初めて使用するのでやりにくかった（６件） 使いにくかった（８件） 同時編集ができなかった（４件） 時間がかかった（３件） 動作や反応が遅かった（３件） これまでのツールの方が良いと思った（７件） あまりにも自由に表現できるため戸惑った 使用方法を具体的に教えてほしかった（３件） ネット環境が弱い場合のトラブルが難点だった 英語表記のため使いにくかった（32件）
オンライン上のデメリット*	miroは共同編集ができるからこそ、参加しない学生もいて残念だった miroを制作中、他のチームから見られることが嫌だった

＊はmiroを使用しての自由記述結果

では、『作成したキャリアデザインは、今後の就職活動にも大いに役立てられる』、『今回の学習で得た学びを就職活動での履歴書や面接に活かしていく』等、就職活動といった次のステージへの取り組みが具体的に示されていた。さらに、『今回の学習は自分たちの新しい強みになると気づくことができた』、『成長確認としては非常に良い授業だった』等、キャリアデザインプロジェクト学習を通して、新たな強みや成長を確認でき、次のステージに向けたモチベーションに繋がっていることが示されていた。

また、miroについての自由記述からは、『自由に作成できるところが良い』が多く、『アイディア次第でどのようにでも表現することができる』、『限られたもので作るよりも無限に個性を出せるため、頭を柔らかく使うことができた』等、成果物の自由な設定環境をプラスにとらえ、柔軟にアイディアを出しあい個性豊かな成果物を作成した結果として【新たな発想への転換】が抽出された。さらに、『より見やすく、わかりやすい資料が作成できるようになった』や『表現の幅が広くて個別性が出やすい』が多く、『作業を工夫すればするほど、読む人を引き付けられる資料をつくることができた』等、新たなツールであるmiroを使いこなしながら、相手を引き付けられるような工夫を行った結果、【表現力のスキルアップ】が抽出された。

miroの機能から、【共同で作業することによる効果】、【効果的なツール】が抽出されたものの、一方では、『操作が難しかった』、『初めて使用するのでやりにくかった』、『使いにくかった』、『英語表記のため使いにくかった』等の【ツールの使いにくさ】も抽出された。

Ⅴ．考察

鈴木（2012）は、プロジェクト学習は、学習者自身が「ビジョン（目的）」と「ゴール（目標）」を明確にしてスタートし、何のために何をやり遂げたいかが常にはっきりしていると述べている。今回の、キャリアデザインプロジェクト学習の調査結果からも、肯定的な回答割合が最も高かったのは「2. 目標を設定する力」であり、自由記載結果からも【キャリアビジョンの具体化】していることが抽出できていた。また、日本看護協会（2023）が示す、「看護職の生涯学習ガイドライン」における看護職個人の生涯学習への取り組みの中では、自律的なキャリア形成や「自らのキャリアはどうありたいか、いかに自己実現したいか」という意識を、学生のうちから生涯を通じて持ち続け、行動していくことの重要性が述べられている。2021年度から開始した本学のキャリア教育では、目指すキャリア像について、明確な「ビジョン（目的）」と「ゴール（目標）」を設定し、具体化したキャリアビジョンを提案集として制作できていた。即ち、今後、看護職全体が目指す生涯学習における自律的なキャリア形成の基盤として、看護基礎教育の段階から、キャリアをデザインするというスキルが獲得できたと言える。

大学改革支援・学位授与機構（2022）では、これまでは教授者が「教えたこと」によって教育が語られてきたが、アクティブラーニングのもとでは、学修者が「学んだこと」で教育を捉えることになる。学生自身が主体的かつ自律的な学びをすすめていくうえで、アクティブラーニングは授業をデザインする際の根幹になると述べられている。今回のキャリアデザインプロジェクト学習の調査結果からは、「5. 発想力」「6. わかりやすく表現する力」についても肯定的な回答割合が高く、これらの力は、キャリアデザインプロジェクト学習において学生自身が「学んだこと」、即ち、主体的に学んだ結果、身に付いた力であったと言える。また、大学教育学会課題研究「大学教育における質的研究の可能性」グループ（2021）による、コロナ禍で学生はどう学んでいたのかの質的研究結果からは、コロナ禍における学生のキャリアイメージについて、ほとんどの学生は漠然とした不安や焦りを抱えたままで、そこから抜け出すようなキャリアイメージを持つものは少なく、一方で、自己内省をした者は、大学の学びと自らの人生とを意味づけてキャリアをイメージする傾向にはあったと述べている。看護学生においては、看護基礎教育に入学の段階から卒業後は看護職として働くことのイメージがあるという専門職としての特徴はあるものの、コロナ禍の同時期に行ったキャリアデザインプロジェクト学習の調査の自由記載からは、『限られたもので作るよりも無限に個性を出せるため、頭を柔らかく使うことができた』、『自由に作成できるところが良い』といった【新たな発想への転換】や、『表現の幅が広くて個別性が出やすい』、【表現力のスキルアップ】が抽出されていた。コロナ禍のオンライン授業ではあったものの、miroを使いこなし等、ICTに強

いデジタルネイティブ世代の学生の新たな強みであったとも言える。また、『成長確認としては非常に良い授業だった』といった記述内容からも、これまでの学習体験やコロナ禍以前の臨地実習体験を振り返り、今後に繋げることができた。これは、先行研究と同様に自己内省できたことにより、前向きにキャリアをデザインできたのではないかと推測する。

また、鈴木（2012）は、ビジョンの実現へ向かうという高い志をもって活動するので、クオリティの高い知的な成果が生まれやすく、前向きさやモチベーションにもつながると述べている。キャリアデザインプロジェクト学習の調査結果からも「強くそう思う」と答えた割合が最も高かったのは、「9. 次へのモチベーション」であり、自由記載からも、『作成したキャリアデザインは、今後の就職活動にも大いに役立てられる』等の【次のステージへのモチベーション】が抽出されていた。しかし、2021年度のキャリアデザインプロジェクト学習では、最終ゴールが公開プレゼンテーションであったため、次へのモチベーションが高まったことの確認で終了していた。また、「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と答えた割合が最も高かった「8. 論理的に表現する力」の具体的な活動内容は再構築であることからも、2022年度からは、公開プレゼンテーションの次の授業回を最終回とし、チームでキャリアデザインプロジェクト学習を振り返り、その後、個人で、①公開プレゼンテーションで他のチームの発表や発表後にもらったコメントをもとに追加・修正した箇所、②キャリアデザインプロジェクト学習を経て成長したことベスト３、③この経験で獲得した力は何か、それはどんな時どのように活かしますか、で構成した「再構築／成長報告書（図4)」を作成し、自己の成長を確認している。また、キャリアデザインプロジェクト学習の授業回数として7回では時間が足りなかったため、2022年度からは10回へと変更した。さらに、個人の取り組みや成長がルーブリック上に十分反映されるよう、アイディア（Idea)、つながり（Connection)、応用（Extension）のICEモデル（Sue.F.Y，Robert J.W,2000/2013）を用いた、ICEルーブリックも導入した。佐藤（2010）は、授業が終了した後、その全過程について振り返ってみることにより、次回担当する授業の全過程をデザインし直すために有益な知見が得られる。この振り返りのサイクルを繰り返すことで、私たちは授業の質を一歩ずつ改善していくことができると述べている。今後も、授業アンケート結果や学生の声に丁寧に向き合い、振り返りのサイクルを継続し、授業の質を高めていくことが必須であると言える。

Ⅵ. 本研究の限界と課題

本研究は、本学における2021年度の限定的データに基づいた調査結果であるため、看護基礎教育のキャリア教育におけるキャリアデザインプロジェクト学習の効果の一部である。

今後は、考察で述べた再構築／成長報告書、授業回数の変更、ICEルーブリックの導入を評価し、繰り返し授業設計を見直していく必要がある。

Ⅶ. 結論

看護基礎教育のキャリア教育におけるキャリアデザインプロジェクト学習では、プロジェクト学習で「身につく力」(鈴木，2012)全9項目において、肯定的回答割合が高く、【キャリアビジョンの具体化】、【次のステージへのモチベーション】等の効果が明らかとなった。

今後、看護職全体が目指す生涯学習における自律的なキャリア形成の基盤として、看護基礎教育の段階から、キャリアをデザインするというスキルが獲得できたと言える。

謝辞

アンケート調査に、ご協力いただいた学生の皆様に感謝を申し上げます。

利益相反

本論文について他者との利益関係はない。

学会発表

本論文の内容の一部は、日本看護学教育学会第33回学術集会において発表した。

引用文献

大学改革支援・学位授与機構（編著）(2022)．第2部 社会の中で価値を産む大学教育―学修者本位の教育への転換―，危機こそマネジメント改革の好機，株式会社ぎょうせい，pp.75-90.

大学教育学会 課題研究「大学教育における質的研究の可能性」グループ（2021)．コロナ禍で学生はど

☆他のチームの発表や発表後にもらったコメントをもとに追加・修正した箇所

☆成長したことベスト３

1）
2）
3）

☆この経験で獲得した力は何ですか、それはどんな時、どのように活かしますか

◇ ◇ ◇

鈴木敏恵（2012）プロジェクト学習の基本と手法 教育出版　P177を一部改変

図４．看護管理学Ⅱ「キャリアデザインプロジェクト学習」再構築／成長報告書

う学んでいたか，ジアース教育新社，pp.83-90.
経済産業省（2010）．社会人基礎力 育成の手引き，学校法人河合塾，pp.2-7.
経済産業省（2018）．我が国産業における人材力強化に向けた研究会 報告書．https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/data/pdf/20180319001_1.pdf, 2023.9.5.
木澤晃代（2023）. 今､「看護職の生涯学習ガイドライン」が公表される意義．看護，75（10），pp.20-27.
公益社団法人 日本看護協会（2023）．看護職の生涯学習ガイドライン，公益社団法人 日本看護協会，pp.1-17.
佐藤浩章（編）（2010）．大学教員のための授業方法とデザイン，玉川大学出版部，pp.52-61.
Sue Fostaty Young,Robert J. Wilson（2000）/土持ゲーリー法一（監訳），小野恵子（訳）（2013）.「主体的学び」につなげる評価と学習方法．東信堂.
鈴木敏恵（2012）．プロジェクト学習の基本と手法，教育出版，pp.14-16,18-32.
鈴木敏恵（2016）．アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する，医学書院，pp.1-24.